

喜田議員 皆さん、おはようございます。第3波が来たと言われるコロナ禍ですが、一刻も早くワクチンや新薬が開発され、収束することを切にお祈り申し上げ、私からの質問に入らせていただきます。それでは、通告していましたが、通告書に基づき、次の2点について、ご質問させていただきます。まず、最初に牟岐の子ども達と事業者を結びつけ支援を。について、質問させていただきます。今年、新型コロナウイルスの影響で様々な学校行事が中止となりました。牟岐中学校においては、宿泊訓練の中止、運動会や文化祭の縮小開催。修学旅行は、12月の予定を3月へと変更し検討している状況です。牟岐小学校では、楽しみの修学旅行が中止、各学年の遠足もできない状態です。学校も一時休校や、夏休みの短縮などで、児童生徒達の学習や運動に対する意欲も薄れ、この先の明確な目標が得られない状態で、日々不安な学校生活を送っている、児童や生徒もいるようです。そんな中、11月には、観光協会が漁協と子ども達を結び付け、イセエビ釣りの催しを行ったり、つい先日では、修学旅行に行けなかった児童達に対し、先生や保護者が企画し、最高の思い出となる野外体験活動が行われ、児童達が笑顔で楽しんだとの事例もあります。今回のコロナ禍において、牟岐町は、新型コロナウイルス感染症施策として、一般家庭や事業者・子育て家庭や学生に至るまで、様々な支援策を行っていただいているところではありますが、今後の牟岐町を担う大切な子ども達へも少し目を傾けていただき、コロナ禍で様々な行事が中止になったり、縮小開催される中、コロナに負けずに頑張っている、園児や児童・生徒達への応援を目的とした、町の支援策として、町内で営む、例えば、あんどんづくりや紙すき体験、SUPやカヌー体験、釣りや炭窯の体験、その他、体験が可能な事業者と子ども達を結びつけるような企画は出ていないか、それにより、落ち込んでいる子ども達に、元気や楽しみを与え、コロナに負けずに明るい将来に向かって頑張る意欲を持たせることができるのではないのでしょうか。そして、このような企画を町が行うことにより、事業者への一部売り上げの補助となり、事業の活性化にもつながることとなります。このようなコロナ対策の企画を牟岐町の支援策として、取り組むことはできないかお聞かせください。次に、大雨の後の漁港内のごみ被害対策についてお伺いします。大雨や台風の通過した後、牟岐町の各漁港内に枯草や立木等の自然ごみが流入し、港内の海面がごみで埋め尽くされるような状況となる場合があります。これは、川上から流れてきたそれらの物が、潮の干満や風の向き等の条件が重なり起こる現象とされてい

ます。港の中がこのような状態になってしまうと、船舶を使用する漁業従事者は、漁に出るために船を動かしたくてもエンジンを始動すると、ごみが機関内に吸い込まれ故障の原因となり、また、スクリュウーにごみが巻き付いたりするため、船舶の移動が困難となり、就労ができない状況となります。このような状況は毎年のように発生しており、漁業従事者は本当に困っています。現状の対応としては、ごみの発生時に役場に連絡が入れば、職員が駆け付け、ごみの状況を確認し、漁協や漁師がごみの回収を行い、その後の運搬処理等は県が行う。処理費用等は牟岐町が負担する取り決めとなっているようです。降雨の後、必ず発生するとは限らず、いつ発生するかわからない自然の被害ではありますが、発生が予想される大雨の前に、防護柵用の網を港の入口に据え付け、ごみの流入を防ぐ対策を漁協が行うこともあるようですが、事前の対策は殆ど行われておらず、事後の対応となっており、その都度、漁師にも負担がかかっているようです。発生後の対応も含め、事前の対策として、少しでも被害を減少させることはできないものでしょうか。このことについてどのようにお考えかお聞かせください。以上、よろしく申し上げます。

一山議長 枳富町長。

(枳富町長 登壇)

枳富町長 喜田議員ご質問の牟岐の子ども達と事業者を結び付け支援を。につきまして、お答え申し上げます。産業関係における「子ども達と事業者を結び付ける支援策」としては、議員からもありましたが、観光協会の主催により実施した、牟岐の子ども達を対象とした、「イセエビ釣りイベント」があります。この事業は、町の直接的な企画ではなく、町が業務委託している観光協会の企画により、牟岐の子ども達の支援を目的として、実施されたものです。観光協会では、他にも、地元商店の布を使ったマスクを、児童生徒たちに寄贈するため、「うみがめ作業所」に業務依頼をしたり、有志を募り、夏の思い出のプレゼントとして、花火大会を行うなど、子ども達に笑顔と、元気を与えてくださっています。このように、牟岐の子ども達への支援として、委託団体である観光協会が、様々な企画を実施していただき、感謝をしているところです。なお、産業課関係では、「に

「ぎわい産業祭」の実施により、子ども達に参加をしていただき、各種職業体験をとおして、来場者と関わりをもてる経験をしていただく予定でしたが、コロナの影響により、開催は延期となっています。議員ご指摘の、「事業者と子ども達を結び付ける企画」の実施に関するお答えとしまして、コロナの影響を受けている事業者を、どうにか支援できないかとの提案としてありがたく思いますが、町長部局として、今、実施すべきことは、事業者が体験の受け入れを整えるための、環境整備に対して支援策を推進することが、重要であると捉え、コロナ対策として、感染拡大防止設備等支援事業など、各種事業者支援を実施しているところです。教育部局におけるご質問への回答につきましては、教育長よりお答えを申し上げます。次に、大雨後の漁港内のゴミ被害対策に係るご質問についてお答えします。雨の少ない期間が続き久しぶりに大雨が降ると、港が大量の草や木で埋め尽くされ船舶の移動や船舶自体にも影響を与える被害が発生しています。この被害は、著しく港の機能を低下させるものであるため、基本的には機能管理者が対応するものであり、東と西の牟岐漁港は徳島県、出羽島漁港は牟岐町で機能の維持を行う必要があります。ただし、徳島県内では河口に隣接する港が多く、それぞれの港でゴミの問題が発生しているため、すべての港のゴミを県で対応することが困難であることから、平成18年度に県下で統一的なルールを決めてゴミ問題に対応することを決めています。ルールの内容は、ゴミの収集は港を利用する受益者として漁業者が行い、徳島県が一般廃棄物として処理施設までの運搬費用を負担し、町が処理費の負担を行うというものです。漁業者が行うゴミの収集に関しては、それぞれの港によって対応の仕方に違いはございますが、年間を通して収集回数が多い港では漁業者の負担はかなり大きく、聞き取りによりますと、過去にゴミの発生の多い年には牟岐東漁港で年間に約12回の収集を行ったこともあります。処理量で申し上げますと過去5年間で最も多く処理した年では、約5トンのゴミ処理を行っています。近年は漁業者の高齢化が進んでおり、年々ゴミの収集対応が厳しくなっている現状を踏まえ、徳島県とも協議を行っていますが、新たな対策方法もなく現時点ではルールが適用できる間は今まで同様にその都度対応をするしか方法が無いとの見解です。また、事前の対応策につきましては、現在牟岐東漁協で取り組んでいる防護フェンスを用いた対策が唯一効果のある対策です。しかしこの対策も台風などの予測可能なケースは対応が可能ですが、ゲリラ豪雨など想定外の雨が降るケースでは対

応ができないことから、万全の対策には成り得ていないのが実情です。町としましては、ゴミの収集が漁業者の負担になっていることは当然理解をしていますが、現時点では喜田議員ご要望の解決策はなく、漁業者の皆様のお力に頼るしか方法がありません。今後は地域の課題として徳島県をはじめ両漁協と共に情報を共有しながら検討をして行かなければならない案件と考えています。以上です。よろしく申し上げます。

一山議長 峯野教育長。

(峯野教育長 登壇)

峯野教育長 私の方からは、牟岐の子ども達と事業者を結び付け支援を。のご質問について、教育委員会の立場からお答えします。議員ご指摘のように、学校では、新型コロナウイルスの影響で、休校や各種行事の中止などが相次ぎ、子ども達の生活に少なからず影響を与えています。生活のリズムが崩れたり、不安を抱えている子ども達もいるように聞いています。学校では、現在、子ども達が楽しく、有意義な学校生活を送れるよう、感染予防対策を徹底しながら、代替行事を行うなど、創意工夫して取り組んでいるところです。また、主に、総合学習の時間に行っている校外での体験活動につきましても、実行可能なものについては、地域の事業者等の協力を得ながら、実施しているところですが、長期の臨時休校に伴う授業時数の確保の問題や、コロナ感染が拡大している現状を踏まえすと、現時点で積極的に体験活動を進めることは、適切ではないと考えています。一方、社会教育の分野では、以前から休日に希望する小学生を対象に自然体験や社会体験を行うことで郷土愛を育むことを目的とした「シラタマ学級」や、中学生を対象にし、地域の方々や大学生の支援を得ながら、自分達で考え実践する、「シラタマ活動」の運営に取り組んでいます。今年度は規模を縮小して実施しましたが、最近では、少子化の影響などで、子どもの参加が年々少なくなっており、子ども達を支援してくださる地域の方々の高齢化も課題となっています。そんな中、町内の事業者と一緒に様々な体験活動を行うことで、コロナ禍で落ち込んだ子ども達に元気や意欲を提供したいという議員のご提案は、大変ありがたいと思いますが、コロナ感染症の収束が見通せない状況の中で、子ども達だけ

でなく事業者や地域の方々の安全・安心の問題や、学校の状況や負担等を考えますと、教育委員会としましては、ご提案の企画に、進んで取り組むことは難しいと考えています。以上です。

一山議長 喜田議員。

喜田議員 只今、町長、教育長よりご答弁いただきました。ありがとうございます。コロナ禍の中、子ども達もいろいろなことを我慢しながら頑張っています。学校教育や課外活動などの諸条件をクリアしなければならない問題もありますが、将来を担う大切な牟岐町の子ども達ですので、今後も機会を見つけていただき、対応していただけることをご期待します。また、港のゴミ対策につきましても、自然現象や高齢化により人手不足の問題もあり、対応策には本当に手こずりますが、漁業従事者にとっては、大変困った問題ですので、今後も注視しながら対処していただくことをお願いし、私からの質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。